

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成26年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム

「発達障害者の特性別評価法 (MSPA) の医療・教育・社会現場への普及と活用」

採択年度 平成26年度

実装責任者氏名 (所属、役職)

船曳康子

(京都大学大学院 人間・環境学研究科、准教授)

1. 概要

《教育・社会》

幼児版、小学生版、中学生版、高校生版、就労支援版の作成のために、それぞれワーキンググループを立ち上げ、メンバーと役割を決め、作業計画を策定した。

それぞれの現場のニーズを調査し、行動観察項目や支援における留意点について整理した。

幼児健診等で要経過観察となるなどの相談対象児に対して、理解と支援のツールとして導入を試みた。

年齢層別MSPA評価支援マニュアルの草案を作成した。

《医療機関》

医療保険適応に向けて情報収集を行い、総合病院精神医学会の診療報酬の委員会に正式に提案し、学会として推薦する流れとなった。

また、医療機関内の種々の職種のスタッフ（心理士、精神保健福祉士、作業療法士、言語聴覚士、看護師など）が30分で施行可能となるよう、京大病院内の多職種チームが、実際の外来患者さんにMSPAを毎週、実施し、流れを確認した。

2. 実装活動の具体的内容

以下のように全体および部会ごとの会議を開き、話し合いながら進めていった。

・第1回 実装支援「教育・社会チーム」関係者会議

日時：平成26年11月1日(土) 18時～19時30分

場所：京都大学医学部付属病院精神神経科2回大会議室

内容：全体計画の共通理解をはかった。年齢層別グループメンバーおよび、リーダーを決めた。また、年度末に向けてのグループごとの目標を定め、連絡のためのメーリングリストを作成した。

・MSPA幼児版グループミーティング

日時：平成26年12月14(日) 10時～12時30分

場所：京都国際社会福祉センター 別館 食堂

内容：実際の事例を通して、幼稚園・保育所などの現場に出向いて、行動観察を通してMSPAを評価する際の課題や留意点について検討した。ミーティングの中で、年長者を対象として面接により評価をおこなう場合の留意点を先にまとめ、それを参照しながら幼児を対象とし行動観察で評価をおこなう際のポイントをまとめるという作業の流れが決定した。

・MSPA小学生版・中学生版グループミーティング

日時：平成26年12月17日(水) 19時～21時

場所：京都府総合教育センター 1階 ミーティング室

内容：小学校および中学校の具体的な事例を通して、移行支援に活用するために有効なマニュアルのフォーマットについて検討し、案が決定した。

・MSPA就労版グループミーティング

日時：平成27年1月30日(水) 19時～21時

場所：京都市総合教育センター 1階 情報交流室

内容：大学生および就労支援の際の留意点について検討した。とくに、保護者から幼少期の様子の聞き取りができない場合の評価の仕方および具体的な支援として何が提供できるのかといったことについて検討し、年齢層別マニュアルに盛り込むべき内容について決定した。

・MSPA講習会用ビデオ試作のための撮影

日時：平成26年12月14日(日) 13時30分～15時00分

場所：京都国際社会福祉センター 本館 プレイルーム

内容：MSPA講習会用ビデオ制作のための検討材料として、複数の幼児の遊びの様子および大人からの働きかけに対する反応の様子を撮影した。モデルとなった幼児の保護者には、事前に撮影の目的について説明し同意書と誓約書を交わした。

<医療>

専門学会を通して、診療報酬として承認されるよう、進めている。

<京大病院での研修>

引き続き見学、研修制度を進め、新たに信頼性のある評価者を輩出し、効率のいい手法を検討した。

3. 理解普及のための活動とその成果

(1) 展示会への出展等

該当なし

(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
平成26年 10月4日	エビリファイ 学術講演会	ホテル日 航プリン セス京都	「自閉スペクトラム症の妄想」について、児童精神科医8名を対象に解説を行った。その中で、ケースを通してMSPAの紹介を行い、精神医療における活用の仕方の解説をした。	大塚製薬 (船曳)	児童精神科医への普及
平成26年 10月25日	神戸地区勉強会	東急イン 神戸	「成人期ADHDの診断と治療」について、神戸地区の精神科医20名ほどを対象に講演を行った。MSPAの開発経緯や活用法について、議論を通して、理解を深めた。	イーライ・リリー (船曳)	神戸地区の精神科医への普及
平成26年 11月2日	支える人の学びの場 先生のための こころ塾2014 Bコース 実践報告	京都大学 稲盛財団 記念館	全国から応募してきた約60名の学校教員が対象。MSPAの紹介とMSPAを用いた支援の事例紹介を行った。実際に支援に携わる教員が、MSPAの概念と実際の支援知ったことで、通常の業務に活かせる可能性がある。	京都大学 こころの 未来研究 センター (小川)	特別支援教育の推進が期待される
平成27年 2月8日	第39回全国精神保健福祉業務研修会 in 京都	京都市教育文化センター	精神保健福祉業務に従事する自治体職員約250名を対象として、大人の発達障害の見立てと対応として、MSPAを用いて解説を行った。	全国精神保健福祉 相談員会 (船曳)	現場において応用可能性が高い
平成27年 3月7日	エビリファイ 学術研究会	グランヴィア 京都	約20名を対象に、MSPAを活用した患者の評価に関するケース報告を行った。ケース報告の内容は、ADHDをベースに急性精神病症状呈した患者におい	大塚製薬 (柴田)	臨床現場での応用可能性の促進が期待された。

			て、MSPAを用いてASD特性の有無を確認し、幻覚・妄想の内容との関連を検討することの重要性について説明した。		
平成27年3月13日(金)	所員研究発表会 「MSPA講座実施と活用検証について」	京都府総合教育センター 大研修室	センターに勤務する所員(研究主事等)による研究発表、報告会 対象はセンター所員、アドバイザー等 約60名 特別支援教育推進の視点から、学校における発達障害支援の実際と医療機関との連携、校内におけるMSPA活用の利点等を報告。	京都府教育委員会 (京都府総合教育センター)	報告対象のセンター所員は学校現場に戻る際管理職となる者が多く、アドバイザーは退職管理職であり、学校への指導助言を職務としている。今後学校内でのリーダーシップにより、研修や活用が期待できるものと思われる。

(3) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

該当なし

(4) 論文発表 (国内誌 0 件、国際誌 2 件)

1) Masahiro Kawasaki, Keiichi Kitajo, Kenjiro Fukao, Toshiya Murai, Yoko Yamaguchi, Yasuko Funabiki, Neural Dynamics for a Sudden Change in Other's Behavioral Rhythm, Neural dynamics for a sudden change in other's behavioral rhythm, Advance in Cognitive Neurodynamics, Vol. 4, 2014.

2) Funabiki Y, Mizutani T, Murai T. Fine motor skills relate to visual memory in autism spectrum disorder. Journal of Educational and Developmental Psychology. 2015 (in press).

(5) WEBサイトによる情報公開

該当なし

(6) 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

①招待講演 (国内会議 2 件、国際会議 0 件)

1) 船曳康子(京都大学医学部附属病院精神科神経科)、発達障害の特性理解とこれから(教育講演)、児童青年精神医学会、アクトシティ浜松 B1F 中ホール、2014年10月12日

2) 船曳康子 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、発達障害の学生をキャンパスライフで伸ばす、全国大学メンタルヘルス研究会、龍谷大学、平成26年12月12日

②口頭講演 (国内会議 4 件、国際会議 1 件)

1) 上月遥 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)・川岸久也 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)・志波泰子 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)・吉住美保 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)・村井俊哉 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)・船曳康子 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、発達障害外来受診者の睡眠状況調査—ADHD関連項目に関する検討—、日本児童青年精神医学会総会、アクトシティ浜松、2014年10月12日。

2) 小川詩乃 (京都大学大学院医学研究科)・船曳康子 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)・吉川左紀子 (京都大学こころの未来研究センター)、発達障害児の読み書き困難評価と支援実践～発達障害の特性理解チャート (MSPA) を用いて～、第55回日本児童青年精神医学会総会、アクトシティ浜松、平成26年10月13日

3) Masahiro Kawasaki (Tsukuba University), Hidetsugu Komeda (Kyoto University), Toshiya Murai (Kyoto University Hospital), Yasuko Funabiki (Kyoto University Hospital). Different strategy for movement imitation in ASD. Neuroscience 2014. Washington DC USA. 2014/11.

4) 小川詩乃 (京都大学大学院医学研究科)、発達障害の支援とデジタル教材・機器～光と影を考える～ (自主シンポジウム「デジタル教材・機器との付き合い方を考える」内での話題提供)、日本LD学会第23回大会、大阪国際会議場、平成26年11月24日

5) 柴田真美 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、ADHDをベースに急性精神病症状を呈したケースを通して、第116回近畿精神神経学会、大阪医科大学、平成27年2月14日

③ポスター発表 (国内会議 1 件、国際会議 0 件)

1) 清水里美 (平安女学院大学短期大学部)・青山芳文 (佛教大学)・亀谷奈津子 (南山城支援学校)、MSPAを用いたアセスメントによる支援対象児の理解～S.E.N.Sの会京都支部会の研修をもとに～、日本LD学会第23回大会、大阪国際会議場、平成26年11月23日

(7) 特許出願

該当なし

(8) その他特記事項

該当なし